

SEMMOTO NEWSLETTER

2024.06.06. No. 10

CONTENTS

- ◆ 第2期生奨学生期間終了式及び第6期生大学合格祝賀会
- ◆ 2024年度春季奨学生認定証授与式
- ◆ 2024年度の事業計画について
- ◆ 富津ソーラー発電所見学会の感想



第2期生奨学生期間終了式及び第6期生大学合格祝賀会にて



公益財団法人

千本財団

Frances and Sachio Semmoto
Foundation

■第2期生奨学生期間終了式及び第6期生大学合格祝賀会

2024年3月26日（火）に第2期生奨学生期間終了式及び第6期生大学合格祝賀会を都内会場（学士会館）にて開催しました。奨学生期間終了式には15名の奨学生その他、千本倅生代表理事、小林業務執行理事、東業務執行理事、橋本理事、近藤理事、藤崎評議員、川口評議員、千本祥子評議員、事務局スタッフ2名が参加し、4月から新生活が始まる第2期生と第6期生を祝福しました。

奨学生期間終了式では、千本倅生代表理事より祝辞が述べられ、第2期生に対して、終了証と記念品（ボールペン、ハンドタオル）が贈呈されました。また、来賓の藤崎評議員、川口評議員、近藤理事より祝辞が述べられました。その後、第2期生4名より大学生活を振り返ったスピーチ、第6期生より新たに大学に入学する抱負についてスピーチしていただきました。スピーチの後は懇親会として、歓談の機会を設け、コーヒーとお菓子を交えて親交を温めました。



千本倅生 代表理事からの祝辞

無事卒業できて、おめでとうございます。日本語の苦勞をして、東南アジアの人にとっては温度が寒かったりする中、4年間苦勞されたと思います。特にコロナがあって、大変なハンディキャップだったと思います。コロナの脅威の中、こうして卒業できたことを嬉しく思っています。そういう意味では、いろんな困難や生活が制限された中、困難を克服して卒業された珍しい世代だと思います。祖国を離れて4年間も日本の大学で勉強することは大変だったと思いますが、それだけ付加価値の高い4年間だったと思います。

我々の財団の幹部は、新しい舞台に皆さんを送り出すことについて嬉しく思っています。2期生がこうして交流会に参加していただき、財団の文化創造に貢献していただきとてもありがたく思っています。これからは同窓生としてこの財団との縁を大事にしてください、日本で、祖国で大活躍してほしいと思っています。

私は50年前にフルブライトの奨学金でアメリカに留学しました。当時日本は開発途上国でした。戦争が終わってまだ20年経ったか経たないくらいで、日本はとても貧しい時代でした。それなので、私はフルブライトの奨学金があったからアメリカに渡ることができました。そうしてアメリカで生活を送っていたわけですが、当時のアメリカはもっと民主主義や倫理観がしっかりしていた時代でした。素晴らしい文明と民主主義の価値観を得られて、この時の経験が活きて、のちにKDDIという会社、auという会社を作ろうと思いました。アメリカに行かなければアントレプレナーシップも身につかず、ゼロから一を作り出すとか、既存のNTTの体制に対して戦って新しい価値を作ろうだなんて考えもしませんでした。やはりアメリカという違う文化・価値観のところに行った文化体験が私の人生を決定的に変えました。それが千本財団という形で恩の先送り、皆さんに対してフィードバックができております。

皆さんには、祖国とアジアと世界のために絶対に役に立つ人間になっていただきたいと思います。できれば皆さんの祖国と日本との間の見えないけれども大事な架け橋になっていただければ、ここにいる役員は嬉しいなと思います。今日一緒に皆さんの門出を祝うことができ、心からお礼を申し上げます。ありがとうございます。

2期生のスピーチ

LIM AN QI (マレーシア)

京都精華大学 マンガ学部 アニメーション学科 4年

この度は千本財団から奨学金のご支援をいただき、誠に感謝しております。メロス言語学院からすべて始まりました。京都精華大学への進学、そして千本財団とのご縁、またこちらにいらっしゃる方との出会いで、今の私になりました。おかげさまで無事に卒業できることになりました。4月からは本格的に社会人になることは未だに不思議に思っています。アニメーションを4年間勉強させていただき、そしてアニメーターとして今年からはスタジオコロリドで勤めることになりました。趣味と仕事を繋げられ、本当に嬉しく思っています。京都に移動したばかりのころはコロナの流行が一番深刻だった時期なので、不安を抱き大学生活に飛び込みました。初めの1年間はなかなかアルバイトがみつからず、生活費と学費はほぼ奨学金でカバーさせていただきました。そのほか、作業用のソフトウェアの購入や展示会の参加などたくさんのイベントに参加でき、それはすべて奨学金のおかげです。

千本財団からの支援はこれだけでなく、生活の細かいところにも配慮がありました。それは1年生の時のことでした、コロナ対策として使われているマスクが一時的に手に入れられなくなりました。その時に千本財団からマスクが届き、段ボールを開けた瞬間に感じた優しさを未だに忘れられません。ささやかなことでしたが、大変心の支えになりました。また、リーダーシップ交流会に参加することで、より自分のことがわかり、未来への恐怖も少しずつですが消えつつある気がしました。拝読させていただいた本からも、沢山の勇気を頂きました。本当に感謝しきれないことばかりです。

最後に後輩たちへのメッセージなのですが、外に行ける機会があれば掴んでください。コロナの影響で国内外の交換留学プログラムが一時的に停止になりましたが、最近ようやく再開していると思います。遠くに行けということではなく、違う県でもよいので、新しい場所に行くことによって、新たなアイデアやインスピレーションが沢山もらえるので、ちょっとだけ足を運んでみると良いと思います。改めて、千本財団に感謝申し上げます。これからも頑張っていきたいと思います。4年間、誠にありがとうございました。

2期生のスピーチ**CHEAH JIA YI (マレーシア)****東京農業大学 生命科学部 分子生命化学科 4年**

あっという間に自分も卒業して、ここに立っていることに感動しています。千本財団での時間を振り返ってみると、自分がとても成長したと感じています。自分の家族では、もともと私の姉も留学しておりまして、私を留学させることは厳しかったのですが、厳しいながら留学をさせてくれた家族のおかげで留学できました。来日してすぐにアルバイトを始めたのですが、それでも日々の生活や大学の学費などを心配していました。そこで、日本語学校を通じて千本財団を知り、応募したところ、採用いただき、今でも通知が届いた時の喜びは覚えています。千本財団の支援を頂いたおかげで、自分も無事に大学を卒業することができました。それについてとても感謝しております。それだけでなく、千本財団で沢山の素敵な方々と出会ったことは、自分はとても恵まれていてと思います。4月からは東京農業大学を卒業し、そのまま同じ研究室の大学院に進学します。慣れている場所ですが、後輩たちの教育を任されることが少し不安で、それでも先輩として頑張っていきたいと思います。

最後に後輩へのメッセージですが、大学を楽しむこと、勉強を頑張って、遊べるときは沢山遊んで、思い出を作ること、あとは聞くことを恐れずにとということです。私も初めは聞くことが怖かったのですが、来日して千本財団の方々の助けがあったおかげで、今ここにいられると思います。今まで出会った方、助けてくださった方、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

2期生のスピーチ**MELLISA ARDELIA (インドネシア)****東京理科大学 理学部第一部 化学科 4年**

この度、奨学生期間の終了を迎えました、第2期生のメリサ・アルデリアと申します。この場をお借りしまして、この4年間私を支援してくださった方々にお礼の言葉をお伝えしたいと思います。まずはこのように第2期奨学生期間終了式及び第6期生大学合格祝賀会を開いていただき、誠にありがとうございます。このような交流の機会を設けてくださったことも、奨学生としても、一人の人間としても、いい大人に育ててくださったことも感謝いたします。経済的な支援をえることで、立ち止まって、自分のより大きな問題に出会うことができ、それについて考える時間と余裕を頂けたことに感謝いたします。日々、その瞬間瞬間だけに精一杯で視野が狭くなりがちなのが若い20代だと思いますが、その中で多くの方々からの支援を受けているからこそ、少しだけでも息ができる、自分ばかりでなく、周りを見る余裕ができました。前の自分の在り方にとらわれることなく、自由に成長するためには、このような刺激が必要だと思います。おかげさまで来る4月より、私は東京工業大学の大学院に進学することが決定しました。新しい研究室では、この4年間の経験が活きると信じています。良い学者になれるよう、変化をもたらす人間になれるよう、頑張っていきたいです。そこで誠に恐縮ですが、引き続き皆様のご支援・ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

最後に後輩へのメッセージです。いい大人に育って、あなたのことを信じて、あなたに支援をくださった方々に感謝を伝えることが良いと思います。感謝の気持ちを忘れず、最後まであきらめずに頑張ってください。

2期生のスピーチ**NGUYEN BAO HUNG (ベトナム)****同志社大学 商学部 商学科 4年**

本日はご出席いただき、誠にありがとうございます。私は正直、去年先輩方の終了式に参加し、来年は自分の番だと思いましたが、1年間がこんなに早く過ぎるとは思いませんでした。今振り返ってみると、日本に来てからは辛いことも悲しいことも幸せなことも楽しいこともあり、沢山の経験をしました。その中で最も大きな出来事は、千本財団から奨学金を頂くことになった時のことです。これによって、私の人生が大きく変わりました。私は子供のころから、日本に來たいという夢を持っていました。しかし、実際に日本に行ってみたら、家賃、学費、食料品、交通費など、親の給料の何倍も高い金額がかかるという現実にあまりに大きなショックを受けました。正直、親に負担をかけたくないため、この夢を何度もあきらめようと思いました。そこで、私を救ったのは千本財団です。千本財団が奨学生として採用してくださったおかげで私は経済的、時間的な余裕ができ、勉強に集中することだけでなく、課外活動などにも参加することができ、本当に一度も経験したことないことを沢山経験できるようになりました。本当にありがとうございました。4月から、私はアマゾンジャパンという会社に就職します。またこれからも頑張らなければならないと心に刻み、頂いたあたたかいお言葉と御恩を忘れずに、頑張ってまいりたいと思います。

最後に、後輩の皆さんへのメッセージですが、ぜひ、このタイミングで自分にしかできないことは何かを意識して行動してほしいと思います。時間は誰も待ってはくれません。一度過ぎてしまったら、取り戻すこともできません。そのため、今ぜひ一秒でも大切にして、後悔のない人生を送ってください。これからも、皆さんを応援し続けます。何かありましたら気軽にご連絡ください。本日をもちまして奨学生期間が終了しましたが、これで終わりだとは思っていません。何よりも貴重なのは、千本財団の方々や、他の奨学生の皆さんとのご縁、これをこれからも大切にして、仕事に取り組んでいきたいと思っています。長い間、本当にありがとうございました。大変お世話になりました。今後も何卒よろしくお願いいたします。



■2024年度春季奨学生認定証授与式

2024年5月11日（土）に2024年度春季の新規奨学生認定証授与式を都内会場にて開催しました。今回から新たに大学生から大学院生（修士課程）までの全ての学年から応募できる奨学金制度が始まりました。新たに認定された5名の奨学生の他、千本倖生代表理事、小林業務執行理事、千本祥子評議員、千本事務局スタッフ2名が参加しました。認定証授与式の後には懇親会を開催し、出席者それぞれが自己紹介を行い歓談しました。



2024年度春季奨学生の紹介



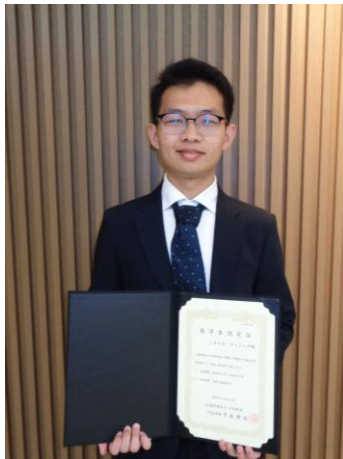
BUI NHUNG ANH（ベトナム）

大阪大学 法学部 国際公共政策学科 2年

学部を卒業した後、私は、大学院に進学したいと考えています。進学先の大学院や専門分野はまだ未定ですが、4年間大学に在学し、触れた学問の中で、自分の能力および関心に基づき具体的な進学先を見出したいと考えています。

現在の自分の学問での最終的な目標は、大学院で博士課程を修了することです。博士課程を終えた後は、自分がつ知識を活かし、専門的なアプローチから日越関係に貢献したいと考えています。具体的に自分が目指す将来の職業は、大学の教員またはベトナム国内の政策作成に携わる仕事です。

政策作成に携わる仕事に関する興味は以前からありますが、このような専門性の高い職業は、それに伴う能力が必要です。自分にはまだこの能力があるかは不明なため、目標に向かって努力し、機会が訪れたら、それを掴み取りたいと考えています。



MIKAEL WIJAYA（インドネシア）

東京工業大学 環境・社会理工学院 融合理工学系 3年

私は、日本で培った経験や技術、知識を通じて、母国インドネシアの技術的・経済的発展を支える人材になることを目指しています。しかし、先進的な科学や研究は、それがいかに有用で人生を変えるものであっても、その開発が一般大衆に受け入れられなければ、成功しません。その技術の理想と現実のギャップを埋めることのできる人物が必要であることに気づきました。そうした人物になるために、まずは科学と工学のさまざまな技術的・理論的側面を研究した後に、実生活への実装、特に経済的観点からの実装に携われるようになりたいと考えています。

また、私は国際的な組織のプロジェクトに参加し、日本とインドネシアの協働の促進に貢献することを目指しています。



MELLISA ARDELIA (インドネシア)
東京工業大学 理学院 化学系 修士課程1年

国際的に活躍する教授になり、自分の研究室を持ちながら、基礎研究の未来、インドネシアの化学教育の未来を支えることが私の目標です。私は、企業でも大学でも多くされている応用向け、すぐ人に役立つような研究よりも、その基盤となる基礎研究に惹かれています。

私は将来、育った環境や家庭事情によって外国に留学できない人でも、インドネシア国内で相応しい教育がもらえるようにしたいです。日本や他の国の教育システム、研究から学んで、インドネシアにでも将来の学者、研究者となる人材の育成ができる環境を作りたいと思っています。



ODONCHIMED SODTAVILAN (アメリカ)
東京大学 工学系研究科 技術経営戦略学専攻 修士課程1年

私は幼少期はモンゴルで過ごしました。モンゴルでは、教育格差、大気汚染をはじめたくさんの社会課題があります。私はこれらの課題は技術で解決できると信じ、技術大国である日本へ留学することを決めました。

私は社会の役にたち、意義のある研究や開発をこれからも続けたいと思っています。そのため、将来は物理学あるいはAIの分野のDeepTechで起業したいと考えています。より将来的には教師になり、モンゴルを始めとする発展途上国の子どもたちや若者たちにこれまで身につけた知識を教えられるように頑張りたいと考えております。



PATTARAKULTAWAE KANATHIP (タイ)
東京工業大学 情報理工学院 情報工学系 修士課程1年

卒業後は、AI技術を積極的に応用して現実世界の問題に取り組む企業に就職するつもりです。

当初は、AIの技術を実社会のシナリオに適用する実践的な経験を積みたいため、開発者として仕事をしたいと考えていました。十分そのような経験を得た後、AIの技術の取り扱いをより管理できるようなマネージャーなどの仕事に転身し、社会に貢献したいと思っています。

また、会社勤めを通じた貢献とは別に、私はAIリテラシーの提唱者になりたいです。ソーシャルメディアのプラットフォームを通じて、AIがどのように機能するかについて伝えたり、AIに関する誤解を正したりすることで、社会にも貢献できるのではないかと考えています。



■2024年度の事業計画について

2024年度は下記の計画の通り事業を実施します。

1. 継続奨学生（第3期生、第4期生、第6期生）への奨学金給付事業

理事会の審議を経て継続が認定された奨学生に対し、下記の通り奨学金を給付する。

- (1) 給付期間：1年間（2024年4月～2025年3月）
- (2) ①給付額（第3期生）：12万円（月額）
②給付額（第4期生、第6期生）：8万円（月額）
- (3) 給付予定人数：11名（第3期生：5名、第4期生：4名、第6期生2名）
- (4) 給付総額：1296万円

2. 2024年度春季奨学生への奨学金給付事業

理事会の審議を経て認定された奨学生に対し、下記の通り奨学金を給付する。

- (1) 給付期間：1年間（2024年4月～2025年3月）
- (2) 給付額：12万円（月額）
- (3) 給付予定人数：5名（学部生：2名、修士課程：3名）
- (4) 給付総額：720万円

3. 第7期生の募集及び選定、奨学金の給付

奨学金制度規程に基づき、本年度は下記の通り対象の日本語学校より第7期生を募集、選定し奨学金を給付する。

- (1) 採用定員：2名
- (2) 給付内容：①期間：6カ月間（2024年10月～2025年3月）
②給付額：5万円（月額）*11月に10月分を含め2カ月分給付
- (3) 応募締切：2024年8月30日（金）*消印有効
- (4) 選考期間：①書類選考：2024年9月13日（金）結果通知
②面接選考：2024年10月5日（土）

* 理事会承認後10月23日（水）結果通知



4. 2025年度春季奨学生の募集および選定

奨学金制度規程に基づき、本年度は下記の通り指定大学および大学院より奨学生を募集、選定する。

- (1) 採用定員：5名（学部生及び大学院生）
- (2) 給付内容：①期間：1年間（2025年4月～2026年3月）
②給付額：12万円（月額）
- (3) 応募締切：2024年12月9日（月）＊消印有効
- (4) 選考期間：①書類選考：2024年12月26日（木）結果通知
②面接選考：2025年1月26日（日）
＊理事会承認後2月14日（金）結果通知

5. 奨学生の交流会の実施

奨学生同士と財団の交流を促進することを目的に、下記の交流会を実施する。

- ①オンライン交流会
 - ・実施時期：2024年4月～2025年2月 2～3カ月に1回開催予定
 - ・参加対象：奨学生18名、事務局職員 ＊参加は任意とする
- ②財団6周年記念交流会：
 - ・実施時期：2024年10月頃
 - ・参加対象：奨学生16名、理事、評議員、ゲスト60人
- ③新規奨学生認定授与式
 - ・実施時期及び場所：2024年5月、11月、株式会社レノバ Board Room
 - ・参加対象：新規奨学生2～5名、財団役員、事務局職員
- ④第3期生卒業祝賀会、第7期生大学合格祝賀会及び新規奨学生認定授与式
 - ・実施時期及び場所：2025年3月、オルクドール Tokyo サロン
 - ・参加対象：既存奨学生18名、新規奨学生5名、財団役員、事務局職員

6. 千本プレミアム経営塾への参加助成：

希望者1名までの奨学生および卒業生に対して、日本での下記プログラムに参加費用を実質助成

2024年4月5日(金) 午前：千本倅生氏のフィロソフィー in 今治

2024年4月5日(金) 午後：岡田武史氏によるFC今治「日本一になるための組織論」
in 今治

2024年7月19日(金)午後：小林りん氏による社会の変革を担うチェンジメーカーを育てる教育 in 軽井沢

2024年9月20日(金)午後：瀬川大秀氏による京都最高位の寺仁和寺「歴史と伝統の継承」 in 京都

2024年11月1日(金)午後：本田健氏による「お金と経営と人生」 in 東京

■富津ソーラー発電所見学会の感想

2024年3月26日（火）に行われた、株式会社レノバの富津ソーラー発電所の見学会について、参加した奨学生からの感想をご紹介します。*学年は2024年3月時点のものです。

CHEAH JIA YI（マレーシア）

東京農業大学 生命科学部 分子生命化学科 4年

富津ソーラー発電所を見学した日は雨ですごく残念でした。バスの中で説明を受け、展望台で少しソーラーパネルを見ることができませんでした。しかし、その後コントロール室で説明を受け、色々面白いことを知りました。最初はなんでそのような形にしたのかがとても気になっていまして、聞いてみると前のコントロール室が台風に使われたから風に強いドームの形にしたと分かりました。東京ではあんまり台風の威力を感じないのですが発電所の方々から話を聞いて初めて台風がどのように人々の生活に影響を与えているかを感じました。とても勉強になりました。

LIM AN QI（マレーシア）

京都精華大学 マンガ学部 アニメーション学科 4年

ソーラー発電所のことはよく映画やニュースで見たりしますが本物を見学したのは今回が初めてです。あいにく雨でしたが、バスで発電所の中まで入れてよかったです。入口から遠くにあるソーラーパネルが全部見られないぐらいの広さに驚いて、管理室の可愛い設計に癒され、そして、たくさんの解説が聞けて非常に興味深い見学でした。さらに、ドローンを飛ばして上空からパネルのチェックをすることを聞いて、ドローンはこんな時に役に立つのだとなぜかすごいワクワクしました。飛ばされているところは見られなくて残念でしたが、撮った写真やチェックのやり方など写真まで用意されていて、詳しく説明してくださったのでとてもイメージしやすかったです。ソーラー発電に対する認識が高められ、レノバのソーラー発電所を見学する機会を設けてくださり、誠にありがとうございました。

MELLISA ARDELIA（インドネシア）

東京理科大学 理学部第一部 化学科 4年

雨で色々見学できなかったことがとても残念でしたが、レノバでやっていることの規模を知るためのいいきっかけにはなったと思います。私の専門は化学で、エネルギーには特化していませんが、再生可能エネルギーはよく取り上げられる問題で、実に興味深かったです。現場について色々学べて本当に良かったと思いました。特に、質疑応答時間に、自分では思いつかない面白い問題に関して聞くことができましたので、有意義な時間を過ごせました。

NGUYEN BAO HUNG（ベトナム）

同志社大学 商学部 商学科 4年

大変有意義な見学だと感じました。担当者の方は、施設の紹介、運営仕組みの説明など非常に丁寧に対応してくださいました。また、こちらの質問も親切にご回答いただきました。そのおかげで、富津ソーラー発電所や太陽発電の仕組み、株式会社レノバさんの各事業に対する理解が大幅に深まりました。あいにく雨でドローンをを用いるメンテナンスが見学できなかったのは少し残念です。また機会あれば、ぜひもう一度行って、メンテナンスの作業を見学したいと思います。

CHIN TECK CHING (マレーシア)**茨城大学 工学部 物質科学工学科 3年**

富津ソーラー発電所の見学を通じて、初めての体験に興奮しました。広大な敷地と無数の太陽パネルに圧倒されました。また、ドローンを活用したパネルの監視や管理ができることで、2人の専門家係員だけで大規模な敷地を維持できる仕組みは素晴らしいと感じました。そして、発電所のデータと仕組みを生で見ることができ、専門家との直接的な対話ができただことは非常に貴重でした。自身のソーラー発電に関する疑問が解消され、その凄さと重要さを実感しました。見学を通じて学びが多かったです。

HA THI TRA MY (ベトナム)**東洋大学 経済学部 国際経済学科 3年**

富津ソーラー発電所の見学に参加できたことは、非常に有意義な経験でした。雨が強かったにも関わらず、実際に太陽光パネルを目の前に見ることができ、発電所の運営について詳しい説明を受けることができました。多くの疑問が湧きましたが、現地スタッフの方々が丁寧に答えてくださり、知識が深まりました。特に、ドローンを使って赤外線でパネルの状態をチェックする技術は、非常に興味深く、印象に残るものでした。私は卒業論文で母国の電力事情に焦点を当てており、太陽光発電についても触れる予定です。この見学を通じて得た情報は、論文作成において非常に役立つものとなりました。

LEON ADITYO HARTANTO (インドネシア)**明治大学 理工学部 応用化学科 3年**

最初に富津ソーラー発電所を見たとき、その広さに驚きました。確かに、資料上では面積が書いてありますが、実際に見た時の気持ちは忘れられません。その日はソーラー発電所を見る天気ではなかったが、レノバ株式会社の社員さんからの説明が詳しく、その発電所の強みをよくわかるようになりました。また、真ん中の監視棟に行くときは、管理者の方がドローンの説明をしたり、パネルについていろいろ知ることができました。今回の見学は私にとってすごく大事で、将来はもっと再生可能エネルギーについて学び、仕事として力を入れたいと考えております。

ALFRED NGU YOK FEI (マレーシア)**法政大学 生命科学部 応用植物科学科 3年**

富津ソーラー発電所の見学は、非常に興味深い経験でした。まず、太陽光パネルが広大な敷地に並ぶ姿に驚きを覚えました。そのたくさんのパネルが一つ一つ太陽の光をうけて電力を生み出していると考ええると、太陽光発電は自然エネルギーを有効活用していると実感しました。また、ガイドの方から太陽光発電の仕組みやメンテナンスについて詳細な説明を受けることができ、技術的な理解が深まりました。太陽光パネルの仕組みや配置、配線など、実際の設備を目にすることで、教科書だけでは得られない貴重な知識を得ることができました。この見学を通じて、太陽光発電の重要性や可能性について再認識し、自然エネルギーの活用が持続可能な未来に向けて重要な一歩であることを実感しました。

MAHESA PAMUNGKAS SUGIHARTO (インドネシア)**明治大学 経営学部 経営学科 3年**

あいにくその日は自分の体調も天気も絶不調でしたが、はじめてソーラー発電所を見学したので、かなり興味深かったし勉強になったと思います。カメラも持っていたので、写真でソーラーパネルや管理所の写真を収めました。やはり規模の大きい発電所を管理するのが難しいなと思いましたが、テクノロジーの進化でより管理しやすくなったのも事実だなと気づきました。たとえば、富津ソーラー発電所の場合だとドローンを活用して壊れたパネルを発見してメンテナンスを行う事がその事例だと改めて思いました。次は晴れの日に訪れてみたいです。

LAI QING LONG (マレーシア)**東洋大学 国際学部 国際地域学科 2年**

当日は雨のせいで、ドローンの飛行デモンストレーションを見ることはできませんでした。しかし、それ以外の見学内容はとても有意義だったと思います。最初に、発電所の全体像を把握するため、高台から眺めることができました。そして、その規模の大きさに驚きました。スタッフの方による詳しい説明を聞くことができ、ソーラー発電のしくみや、この発電所の特徴などについて、大変興味深く学ぶことができました。特に、パネルの損傷箇所の早期発見にドローンの活用が非常に有効であることを理解することができました。再生可能エネルギーの重要性が叫ばれる中、実際にそうした発電所を見学できた経験は、とても有意義でした。天候に恵まれなかったのが残念でしたが、貴重な機会を得られたことに感謝しています。

NATHANAEL IAN GUNADI (インドネシア)**青山学院大学 理工学部 情報テクノロジー学科 2年**

その日は雨が降っていたため、ドローンを使って太陽光パネルの欠陥を調査する様子を見ることはできなかったのは残念でしたが、太陽光パネルの発電所への訪問は全体的に素晴らしい経験でした。発電所の運営に必要な人員が非常に少ないことに驚きました。また、草が生い茂ってパネルが覆われる可能性があるという事実も、私にとっては新たな発見でした。これは、定期的なメンテナンスと管理の重要性を教えてくださいました。再生可能エネルギーの現場が直面している課題としては、その不安定性だということもわかりました。

LEE ZEE YEEN (マレーシア)**長崎大学 多文化社会学部 多文化社会学科 2年**

富津ソーラー発電所の見学は、私の専門とは異なる分野に触れる貴重な機会でした。エネルギーに関する知識は私の専門ではありませんが、この見学を通じて少しだけ新しい知識を得ることができました。広大な敷地に広がる太陽光パネルの美しい風景は、自然と技術の融合を感じさせ、持続可能な未来への希望を感じました。ガイドの解説により、再生可能エネルギーの重要性や発電所の効率性についても学びました。残念ながら、雨のせいで見学時間は想像よりも短かったですが、それでも見ることで光景は印象的でした。雨で近くまで見学できなかったのは残念でしたが、遠くから眺めるだけでも、その壮大な規模と美しさに感動しました。この経験は私にとって、新しい分野に興味を持つきっかけとなりました。

ANDREW LIM KAR JUN (マレーシア)**山形大学 工学部 情報・エレクトロニクス学科 2年**

富津ソーラー発電所を見学して、自分の想像を超える広さにびっくりしました。大雨のせいで視野がある程度狭くなりましたが、44万平方メートルのソーラーパネルが並んでいる風景は壮観でした。また、急速な科学技術の発展でソーラーパネルのメンテナンスが簡単になりました。具体的にいうと、人によるソーラーパネルのメンテナンスは何週間もかかりますが、ドローンによるソーラーパネルのメンテナンスは数日間しかかかりません。赤外線カメラを通して、ソーラーパネルが正しく作動しているかどうかですぐにわかるのがすごいと思います。

LEE LIUYIN (マレーシア)
アジア学生文化協会

実際にソーラーパネルを見たことはありますが、こんなに近い距離で見るのは初めてでした。ドローンの体験は前からずっと楽しみにしていましたが、あいにく大雨で体験することができませんでした。とはいえ、ソーラーパネルについて詳しく話していただきとてもわかりやすかったし、新たな視点をすることもできました。ドローンのおかげでソーラーパネルのデータ収集がすぐ手に入ることで従業員の負担減が可能になりました。将来いつか石油がなくなる時期は来ると思います。その時、再生エネルギーに頼るので、再生エネルギーの開発を応援します。

WONG HAO XUAN (マレーシア)
大原日本語学院

私が一番に気になっている点は機械の利便性により効率が大変上がったことです。最初に驚いたのは、これほど広い面積の太陽光発電所はたった2人が管理しているということです。太陽光発電所を管理する内容は、太陽光パネルの定期的な検査や発電に問題が発生した時の問題源の発見などがあります。これらの仕事を2人に任せられるとすごく辛いはずですが、ドローンに紫外線センサーをつけて活用することで、2人でも管理の仕事に対応できるようになりました。そして、自分は将来人が便利で効率よく仕事ができる機械や技術に開発したいという気持ちを確認することができました。